

すずか倶楽部 南条 雄士 議員



1 産業振興のあり方について

- (1) 産業振興関連支出と税収向上額
- (2) 産業振興・都市計画と地域公共交通
- (3) F1後泊イベントとトップセールス

質問1 (1)① 産業振興部の役割として、毎年度支出を上回る税収向上を求める位の姿勢が必要ではないか。産業振興関連支出に対する税収向上額はどれくらいか。

答弁1 (1)① 産業振興部の事業に関する平成24年度の歳出予算は21億3600万4千円である。税収に至るプロセスが複雑なため、具体的な税収増は計りかねる。

質問1 (1)② 毎年約20億円の税金を投入しながら税収は向上していないが、産業振興に取り組む姿勢はこのままで良いのか。また、支出に対する税収向上効果を今後どのように判断するのか。

答弁1 (1)② 事務事業評価制度により検証を行い、最小の経費で最大の効果を上げられるよう事業の改善や見直しに努め、産業・経済の活性化を図る。

質問1 (2) 現在の地域公共交通のあり方は、他産業の成長機会や市街化区域への居住促進を阻害している可能性がないか。今後も現在の姿のまま続けるのか。

答弁1 (2) 既存の公共交通運行会社とは合意を得ている。現状においては市街化促進に影響を与えるものではないと考える。今後は収益性の改善に努める。

質問1 (3) F1後泊促進レーシングカート体験イベントの不開催を反省し、市幹部自らが普段からモータースポーツを体験して発信力を高めるべきである。

答弁1 (3) 昨年の反省を踏まえ、今年度の後泊促進イベント開催に向けてしっかりと発信したい。

市民クラブ 大西 克美 議員



- 1 高齢者への対応強化について
- 2 観光振興について

質問1 鈴鹿市の買い者弱者は何人位いて、買い物弱者への行政支援はどのように考えるのか。高齢者が気軽に集う居場所の提供の支援は。

答弁1 およそ2000人が買い物の手伝いを望んでいて、福祉有償運送サービスを行う事業者の周知及び利用の促進、介護保険制度の中で日常の買い物等ホームヘルパーの派遣サービスを利用いただいている。公民館では健康講座や趣味などの教養活動など様々な講座を開講し、仲間作りの場を提供している。

質問2 鈴鹿市の景観を全国に発信営業してはどうか。F1コレクションホールの設置は。

答弁2 鈴鹿サーキット・椿大神社という地名度の高い施設のほか歴史的文化的な観光資源も数多くあることから、鈴鹿市観光協会・鈴鹿商工会議所とも連携しながら、随時メディア等への確に情報発信していく。7月7日に鈴鹿サーキットに「レーシングシアター」がオープンしたので、コレクションホールとしての役割を担っていただける施設であると期待している。



鈴鹿市観光協会

すずか倶楽部 原田 勝二 議員



1 海岸線地域の津波避難施策を問う

- (1) 地域を(若松・箕田・長太)に限定した施策を問う

質問1 津波による被災予想は。

答弁1 国や県の被害予想の確報が届き次第、被災予想をお示しする。

質問2 津波浸水予想地域内での避難困難者の現況。

答弁2 高齢者の一人暮らしの方が若松232名、箕田107名、長太238名で計577名。高齢者のみでお住まいの方が若松154名、箕田76名、長太158名で計388名。以上合計で965名である。

質問3 避難ビル等、高所避難施設の指定や契約状況は。

答弁3 若松では若松小学校。箕田では箕田小学校と大木中学校。長太では長太小学校とビジネス旅館花房。以上合計5棟で収容人数は合計2740名である。

質問4 避難タワーの必要性は。

答弁4 今後、国・県の津波被災予想の見直しを見極めたい。

質問5 今後の施策は。

答弁5 津波避難タワーを減災の有効手段と考え、他市の事例を参考とする。避難ビルの基準を見直す等、地域の実情にあった施策を推進する。

質問6 市長の考えを問う。

答弁6 若松・箕田・長太地域の空白実情は理解している。新しい公共建築物等に津波避難施設としての役割を求めてゆく。